第25回
宗教倫理学会学術大会

The Twenty-fifth Conference of
the Japan Association of Religion and Ethics

大会テーマ
宗教の「自由」を再考する

Reconsidering Religious “Liberty/Freedom” :
Focusing on Contemporary Japan

◆ 2024年度研究プロジェクトテーマ：宗教の「自由」を再考する――現代日本を中心に

日本では、欧米のような個人主義が育っていないとされるが、そのことと現代日本人の多くが「無宗教」を自認していることは無関係ではなかろう。すなわち、その場合の「宗教」とは「個人の宗教的信仰」を指すが、実際はほとんどの日本人が初詣や盆など何らかの宗教行事に参加しているのであり、このことについて澤井義次は、日本では「個人の宗教的信　仰」と「生活慣習としての宗教」が有機的に重なり合う多元的・重層的な意味構造を構成していると説明する。問題は、この後者の「宗教」によって（たとえば「同調圧力」という形で）前者の「信仰の自由」がしばしば抑圧されているという点である。一方、近代ヨーロッパ社会で確立した「政教分離」の原則は、世俗主義の流れの中で「公共性」（公共圏）と「自由」（親密圏）を対立するものとして位置づけてきたが、「私事としての宗教」を超え出る「公共宗教」を巡る議論は、このような公／私という構図が一面的にすぎないことを明らかにした。こんにちの欧米社会において「政教分離」が問い直される中で、「宗教的自由」が改めて議論の的となっている。会員の積極的な発表と議論への参加を期待したい。

日時：２０２４年１０月１９日（土）
午前９時００分　受付開始
午前９時２５分　開会

会場：関西大学千里山キャンパス　第1学舎4号館　D401教室

第25回学術大会実行委員長：宮本要太郎（関西大学）

実行委員会：〒520-2194大津市瀬田大江町横谷1-5
龍谷大学社会学部古荘匡義研究室内
staffs@jare.jp　http://www.jare.jp

宗教倫理学会第25回学術大会プログラム

9：00　　受付開始（関西大学千里山キャンパス　第1学舎4号館　D401教室）
9：25　　開　会

◆研究発表〔9:30～10:35、20分発表 10分質疑応答〕

司会：岡野彩子（関西大学）

9：30～10：00
1．岡谷和作（ダラム大学）　※オンライン発表
キリスト教における神の予知と信仰の自由　―中間知識の可能性と課題を巡って―

10：05～10：35
2．佐藤啓介・横濱佑三子・岸根紗葵（上智大学）
日本の宗教系大学ではどのような宗教倫理が教えられているのか――キリスト教系大学の宗教科目シラバスのテキストマイニングから

＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊ 休　憩 ＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊

◆公開パネル「宗教の自由を再考する」〔10:45～12:30〕

10：45～11：00
1．**2024年度研究プロジェクト報告**
澤井義次（研究プロジェクト委員長、天理大学名誉教授）

11：00～12：30
2．**パネル討議「「宗教」概念の再考――「世間」と「自由」の切り口から」**

司会：澤井義次

宮本要太郎（会長、関西大学）「習俗は世間の「宗教」か？」
井上善幸（龍谷大学）「宗教者と非宗教者との関わりという視点から見た「宗教」の概念化」
末村正代（南山宗教文化研究所）「禅者が見た近代日本における「世間」と「自由」」
古荘匡義（龍谷大学）「今岡信一良の自由宗教は「宗教」か？」

＊～＊～＊～＊ 昼休み（昼食は各自お取りください）　＊～＊～＊～＊～＊

◆公開講演〔14:00～16:30〕

総合司会：酒井真道（関西大学）

14:00～14:05　趣旨説明・講師紹介（宮本要太郎）
14:05～15:05　講演

悟りと自由――鈴木大拙の論をてがかりに

水野友晴（関西大学）

15:05～15:20　休憩（質問用紙に講演に対する質問をお書きください）

15:20～15:50　コメンテーターによるコメント・質問と講演者からのレスポンス

コメンテーター：末村正代（南山宗教文化研究所）

15:50～16:30　質疑応答

＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊ 休　憩 ＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊～＊

16:40～16:50　記念写真撮影

17:00～17:30　会員総会

18:00～20:00　懇親会　於：レストラン　チルコロ（新関大会館南館4F）

＊午前中の個人研究発表に参加される非会員の方には資料代として500円をいただきます。公開パネルと公開講演には非会員の方も無料でご参加いただけます。

研究発表要旨

１．岡谷和作（ダラム大学）
キリスト教における神の予知と信仰の自由　―中間知識の可能性と課題を巡って―（Divine Foreknowledge and Religious Freedom -The Possibilities and Critiques of Middle Knowledge-）

【発表要旨】

信教の自由は神の予知と共存しうるか。伝統的キリスト教教理では、神の全知性と人間の自由意思の双方が肯定されてきた。しかし現代神学ではこの二つの命題に矛盾を見出し、どちらかを優先する傾向が見受けられる。このジレンマを解決する立場として再注目を浴びているのがルイス・モリナの「中間知識論」である。モリナによれば、神の知識は過去・現在・未来(was, is, will)だけではなく、「もしも～ならば～」（would）の知識である「反事実的知識」をも含む。神が創造の時点で中間知識を保持しているならば、人間の選択は真の意味で自由であり、同時に神の予知も肯定されるからである。同時に中間知識論には「基礎づけ的反論」を中心とした論理的課題も指摘されている。本発表では神の予知と自由意志を巡る議論の糸口として、中間知識論の可能性と批判を神的イデア論の視点から検討する。

導入：信教の自由の前提としての自由意志

１・自由意思と神の予知をめぐるキリスト教伝統

２・現代神学における神の予知の否定

３・中間知識論の可能性と主な批判

２．佐藤啓介（上智大学）、横濱佑三子（上智大学）※非会員、岸根紗葵（上智大学）※非会員
日本の宗教系大学ではどのような宗教倫理が教えられているのか――キリスト教系大学の宗教科目シラバスのテキストマイニングから（What kind of religious ethics are taught at religious universities in Japan?: From text mining of religion course syllabi at Christian universities）

【発表要旨】

本研究は、日本の宗教系大学、特にその必修宗教科目において、どのような宗教倫理が教育されているのかという実態を計量的に把握し、日本国内の宗教（ないし宗教者）が社会的

意義があると考える「宗教倫理」の内実を描き出すことを試みる。その試みの一部として、約80のキリスト教系大学で開講されている400以上のキリスト教必修科目・宗教必修科目のシラバスをテキストマイニングするという方法を採用する。本研究は、宗教教育に関する実態調査であると同時に、日本社会に宗教側から「宗教の倫理」がどのようなものとして提示されているかを明らかにすることで、「信教の自由」の保証のもとでの（いわゆる）世俗社会と宗教とのあるべき関係を考える一助となることを目指す。同時に、宗教（者）が日本社会において「どのような社会的関わりを持ちたいと考えているか」という宗教の社会性・公共性をめぐる意識を浮き彫りにすることにもなる。

公　開　講　演

悟りと自由――鈴木大拙の論をてがかりに

講師：水野友晴（関西大学）

講師紹介

水野友晴（みずの・ともはる）

関西大学文学部教授。

1972年愛知県生まれ。1996年京都大学文学部学部哲学科（宗教学専修）卒。2001年、京都大学大学院文学研究科（思想文化学専攻、日本哲学史専修）研究指導認定退学。関西大学文学部准教授などを経て、2022年より現職。

京都大学人文科学研究所共同研究員、国際日本文化研究センター共同研究員、公益財団法人日独文化研究所監事などを歴任。

博士(文学)(東北大学)。専攻は日本哲学・日本思想史・比較思想。

主要著作に、『「世界的自覚」と「東洋」―西田幾多郎と鈴木大拙』（こぶし書房、2019年）、『共同研究 共生：そのエトス、パトス、ロゴス』（こぶし書房、2020年、共著）、『環境と資源･エネルギーの哲学』（『未来世界を哲学する』第1巻、丸善出版、2024年、責任編集）など。

講演要旨

鈴木大拙は、その著作の多くで独特の自由論を展開している。その基本的な文脈は、東洋思想には西洋近代文明が採用しているものとは異なる「自由」概念があり、これを再評価することは現代生活における困難さの克服や人間性の回復につながるというものである。

したがって大拙の自由論は西洋近代文明に暮らすわれわれの生ということを強く意識したものであり、視野を東洋世界の古典内に限るものではない。また、これを古典の訓詁注釈の類いとして扱うことにも慎重である必要がある。むしろ彼の自由論は、東洋の古典における「自由」概念を現代生活の視点からプラグマティックに応用しようというものであり、それは「自由」概念の現代への移植の試みとして見ることができると同時に、「自由」概念に現代生活を照射して相対化する試みとしても見ることができる。

大拙によれば、東洋の「自由」概念は「悟り」と内面的に結びついている。しかし大拙の自由論が現代生活を相対化して見る試みであるならば、そこで語られる「悟り」も単なる語釈として捉えられるべきではなく、現代に暮らすわれわれに「悟ること」を促す実践的な意図から発言されていると見るべきであろう。このような意図から大拙自由論の文脈と、そこにおける「自由」と「悟り」の内的結びつきについて探ってみることにしたい。

アクセスマップ

電車でのアクセス

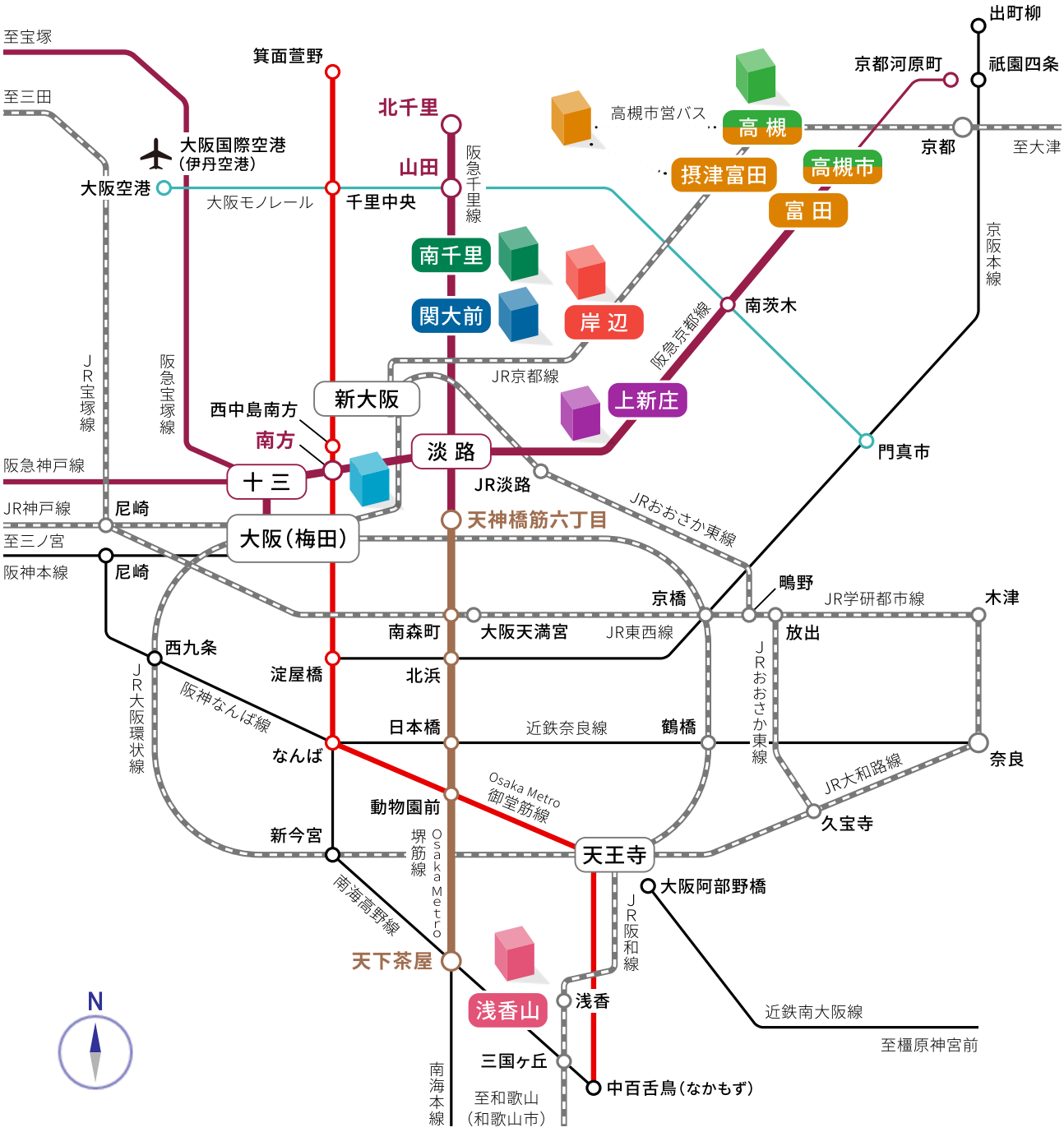
阪急電鉄千里線「関大前」駅下車、すぐ（正門までは徒歩約5分）。

新幹線「新大阪」駅からのアクセス

JR「新大阪」駅から地下鉄Osaka Metro御堂筋線「なかもず」行で「西中島南方」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「南方」駅から「淡路」駅を経て「関大前」駅下車（この間約30分）。

大阪（伊丹）空港からのアクセス

大阪モノレール「大阪空港」駅から「門真市」行で「山田」駅下車、阪急電鉄に乗り換え「関大前」駅下車（この間約30分）。



※赤の矢印で示した建物（地図の1-4番）の４階です。正門を入った後、最初の角を左に曲がって坂（通称法文坂）を登ってください。右手の総合図書館（地図の8番）、尚文館（地図の6番）を通過すると、人工芝の広場（地図の35番「あすかの庭」）が見えますので、その広場を横切ってD棟においでください。